

令和4年度第1回平館高等学校学校運営協議会議事録

日時：令和4年6月23日（木）10：00～12：00

場所：研修ホール

参加者：校長、学校運営協議会委員13名 欠席1名（会長 田中耕一 様）

次第に沿って進行

1 辞令交付

校長から委員代表として、副委員長 齋藤学 様へ 他は机上へ配付

2 校長挨拶

本校にとって地域の皆様とのご縁は大きいものです。子どもたちは日々成長しております。学校運営については、小学校・中学校・地域と連携しながら、生徒たちが平館高校に入学して良かったな、保護者の皆様は平館高校に入学させて良かったな、地域の方々は平館高校を応援して良かったなと思っていただける学校にしていきたいと思っています。高校時代は、その後の人生に大きな礎となり、その大きなきっかけをつくるのが高校現場です。教育の現場は、今までと違ってきています。本校から人づくりをして、本校から八幡平市の魅力を発信して、大きな宝物を育てられるよう頑張っていきたいと思っております。地域の皆様のアイデアやご援助、応援が子どもたちや我々教職員の支えとなっております。この運営協議会が本当の意味で機能して良い方向に繋がっていけば良いと思っています。年間を通じて、いろいろなご意見を賜りながら学校発展のために尽力して参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

3 家庭クラブ研究紹介

7月の全国大会に向けて準備練習中の研究発表を紹介（家庭クラブ4名と関先生）

4 委員自己紹介

・後藤知恵

家庭科教員として30年間勤務し、この4月に副校長として平館高校に赴任。前任校では学校運営協議会がスタートしておらず、経験不足であるが、委員の方々に助けていただきながら進めて行きたいと思っている。

・石川千枝

昨年度から委員を勤めているが、今年度もご協力のほどよろしくお願いしたい。私はこの学校に二度目の勤務なので地域のことは分かっているつもりであるが、新しい八幡平市そして平館高校になったなあと日々実感し、別な学校に来たような気持ちである。

- ・ 畠山幸清

今年度平館高校のPTA会長になりまして、このような役は初めてで、このような会議に出るのも全部新鮮な気持ちで参加させていただいている。力及ばないかもしれませんが、皆さんの協力を得てやっていきたい。

- ・ 吉田裕香

地域おこし協力隊である。学校運営協議会は初めての参加で、いったいどういうことをやるのか分からないまま参加している。できるだけいろいろな意見を出せるように考えて参加していきたいと考えている。

- ・ 高宮征宏

麗峰苑施設長。昨年の10月から委員をしている。自宅は盛岡でここに通うのに50分くらいかかる。8か月経過してみて、こちらの環境がすごく落ち着くと感じている。楽しく勤務している。

- ・ 瀬川恵子

家庭クラブの発表で、福祉施設で縫製したという施設がうちの施設である。そういうご縁で昨年から委員を仰せつかっている。昨年はあつという間に過ぎてしまいお役に立てなかった。資料を拝見し、ポパイの家の障害を持った人たちとこちらの生徒さんたちができることがあるなあと思っていたところである。今年ではできるだけ提案しながら参加できればと思っている。

- ・ 齋藤学

平館青商会の会長をしている。平館高校と今連携事業としてやっているのは、冬にやっているイルミネーション事業で、今年が7年目になる。その他に、地元のひょうたん池という憩いの場があるが、3年前から誘致活性化事業として平高美術部と看板制作をして設置したり、トイレを設置したりして校外学習の場として利用してもらえるようになった。平高1学年や小学校の遠足に利用してもらった。

- ・ 鈴木絵美

地域密着コーディネーターとして活動している。そして現在田頭小学校のPTA会長もしている。平館高校とは4年前くらいから地熱理解促進という市の事業の中で地熱のことを地域の子どもたちに知ってもらおうという取り組みの中でコーディネートを担当して、家政科学科と一緒にトートバックを作ったことを機に、様々な商品開発に携わっている。昨年からは市の観光人材育成という事業で家政科学科2年生の地域観光基礎、3年生の地域観光実践という授業のコーディネートをしている。先月も雨の中、一緒に八幡平を歩いて来たが、地域のことを知って地域のことを発信できる人になって欲しいという思いで活動している。今回は、この机上のバジルのクッキーの商品開発も担当している。ぜひ食べていただいて、厳しいご意見をよろしくお願ひしたい。

- ・ 遠藤収一

委員は昨年からは仰せつかっている。今商工会は、今年度の平館高校2年生48名のインターンシップを支援しており、市内の受け入れ企業の取りまとめをしている。昨年はコロナの影響で難しかった点もあるが、今年度は計画どおりに就労体験ができることを期待している。また商工会の組織の中には青年部があるが、青年部では、子どもたちに地域を知ってもらおう活動として担い手育成事業を実施している。

・佐藤晃

八幡平市企業懇談会の副会長もしている。平館高校との関わりは、近隣高校との就職活動懇談会等で、地元企業の橋渡しなどを行っている。この委員は、学校評議員会のところから担当している。今後もしろいろな提案等をしていきたいと思っている。

・工藤昌雄

今年から委員になった。以前は高校の校長で、北島校長先生と同じ教科なもので、そのような繋がりでも、委員をお願いされたのだと思っている。現在は盛岡情報ビジネス&デザイン専門学校、盛岡ペットワールド専門学校、盛岡公務員法律専門学校の校長をしている。平館高校は実学を身に付けるのが学校のポリシーに入っているのも、IT関係などいろいろな形で協力できるのではないかと考えている。あと県庁の横にある岩手県公会堂の館長と盛岡ユネスコ協会の会長をしている。個人的には沿岸の方の復興が完全に進んでいないので、支援活動をしている。特に両親を亡くしたり片親を亡くしたりした子どもたちが経済的な理由で進路変更している。県ではいわて学び基金で奨学金を貸与しているが、日本中で災害が起きているため、寄付金がどんどん減っていて、あと17年後は全部無くなってしまう。それで少しでも役にたちたいと思い、復興支援チャリティショーが今年で5年目になるが、事務局長としてやっている。いままでの4年間で180万円くらい寄付することができた。今年は釜石祭を手伝う予定。世の中少子高齢化で活力がなくなっている。何かアクションを起こさないと知れ渡らないし、関心も持ってもらえないので、起爆剤となるようなことを工夫していかないとこれからは大変。少しでも、平館高校のお役に立てればと思っている。

・寺澤幸昌

市内最大規模の西根中学校の校長3年目である。委員は昨年からは、その前の評議員会時から参加させていただいている。その当時は平館高校へ本校からの入学生が16名程度しかおらず肩身が狭かったが、その後1.5倍に増やすことができたので安心している。北島校長先生には、本校の学校運営協議会の委員もさせていただいて相互に情報交換しながらやっている。お互いが良い形でのびれば良いなと思っている。

・遠藤幸宏

名簿の一番上で恐縮している。今年から教育委員会の教育総務課に配属となった。教育総務課では、小中学校のコミュニティ・スクールも担当しているが実際まだ現場には行ってないので、これから勉強しながら行ってみようと思っている。昨年までは商工観光課にいたもので、この委員の中には顔見知りが多いので心強い。ご助言いただきながら頑張っていきたい。

- 5 「岩手県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」について
学校運営協議会の運営規則について、資料に沿って確認した。異議は特になし。

6 議長選出

規則では、会長となっているが、副校長が進めることで承諾を得る。

7 協議

- (1) 平館高等学校学校運営協議会の基本方針について

資料のとおり承認された。

- (2) 令和4年度学校運営の基本方針について（学校経営計画・グランドデザイン）

資料のとおり承認された。

- (3) 令和4年度教育課程について

工藤昌雄：今後ハロウとの交流を進めるのであれば、コミュニケーション英語に力を入れていかなければならないだろう。（交流を意識した取り組みが必要。訪問の際、生徒が萎縮しないように。また、そうすることで、平館高校に入学すると国際交流ができるというような魅力発信にもつながっていくかもしれない。）

石川千枝：家政科学科の1年生が2・3年生になった時、これまでの観光の科目が、「生活と地域資源」、「生活と地域資源活用」となる。これまで以上に地域に目を向けて幅を広げて研究活動していくことになると思うので、委員の方々にもご協力を得る機会が多くなると思うがよろしく願いたい。この科目は、家政科学科のコミュニティコースだけに留めず、全体で学習する科目になってもよいと思うので、少し検討していかなければならないと思っている。

鈴木絵美：「地域観光基礎」、「地域観光実践」の授業をこれまでお手伝いしてきている中で、「観光」に縛られて衣食住に絡めた家政科学科らしい内容に広めにくいという実感があったので、科目名が変わることで、取り組みやすくなると思う。

- (4) 令和4年度教育振興会事業計画・予算書について

後藤より、八幡平市からの補助金等の説明をして、会計の運用状況について確認していただいた。（遠藤収一委員から、生徒の負担（4,500×10 か月）が多くて驚いたという感想などもあり）

- (5) 学校運営協議会年間計画（案）について

資料のとおり承認された

- (6) その他

最後に一言ずつフリートークとした。

遠藤幸宏：県内の高校の学校運営協議会設置状況は？

寺澤幸昌：広報はちまんたいやHPの更新等情報発信楽しみに見ている。生徒の紹介を掲載する時、出身中学校だけでなく、小学校もあればと思っている。（より下の子どもたちに関心を持ってもらおうとするのであれば）

工藤昌雄：PTA総会が中止だったようだが、PTAで保護者との接点を多くしていくべきと考える。学校は地域や同窓会、保護者との交流を活発にするべき。（コロナ禍でも工夫して）

- 佐藤 晃：地域にどうやって子どもたちを残すかということや、平館高校の定員数確保等についてももう少し議論したい。
- 遠藤収一：我々も積極的に活動できるようにしていきたい。教育振興会会計に対して、地元企業の賛助会費などもあれば子どもたちの役に立てると思った。
- 鈴木絵美：地域力が人を集める力になり、企業や町の盛り上がりにもつながる。今後も一市民として平館高校をPRしていきたい。
- 齋藤 学：紫薫祭で中学生と高校生が一緒になったイベントや共同ブースを企画すると、中学生の保護者も来てくれることにつながり、平館高校の魅力発信になると考える。入学生30%確保をしていくなら、平高ではおもしろいことやっているとってもらえる仕掛けが必要だ。
- 瀬川恵子：生徒の挨拶が立派。地域には様々な人が住んでいるのだということを知ってもらえるような形のもの協力できる。より具体的な話し合いができると、この会は充実していくものと考えている。
- 高宮征宏：平高の卒業生が職場におり、働きぶりもよく大変助かっている。しかし福祉の現場は人材確保が難しくなっているのも事実である。地域資源というところで、平高生と我が施設がうまくマッチングできれば、双方にとって魅力的なものになると考えるので積極的に取り組んでいきたい。
- 吉田裕香：高校生のために地域の大人がこんなにも真剣になって話し合いをしているということを知り、衝撃を受けた。できることがあれば、自分ももう少し高校生と関わっていきたい。
- 畠山幸清：学校は地域に残していかなければならない。中学校の先生方にも、平館高校を進めてもらったりして入学生を増やせればと思う。
- 石川千枝：今の生徒たちは静かだが、一つ一つの活動に素直に感動してくれるので、様々な機会を増やしてあげたいと考えている。今後ご協力お願いしたい。
- 後藤知恵：将来の八幡平市を背負う、八幡平市の魅力発信ができる子どもたちを育てるために、これからもご意見や内側からは気付けない課題などについてご指摘をいただきながらこの会を充実させていきたいと考えているのでよろしくお願いしたい。

8 その他
特になし